

## トピック 1 市町村教育委員会等の取組について

県内の小中学校等において児童生徒の学力向上を推進するにあたっては、市町村教育委員会の役割が重要です。市町村によっては独自の学力調査を実施していますが、その目的はもちろん、全数か抽出か、単一教科か複数教科か、などの実施方法はさまざまです。特に、次の(1)、(2)のように、民間事業者を活用するかどうかという点で見ると、運営面や予算面など、大きな違いがあると考えられます。

(1) 民間事業者等が実施する調査を採用

(2) 市町村で委員会等を組織して調査を実施

どちらもメリット・デメリットがあり、細かな言及はしませんが、予算的な措置が十分でない(1)の方法で実施することはできません。そこで、ここでは(2)の方法で独自の学力調査を実施している八街市教育委員会の取組を紹介します。

### 八街市教育委員会の取組

八街市教育委員会では、市内全小学生対象の基礎学力調査(国語、算数)のうち、今年度、算数について、MEXCBTを活用してCBT方式で実施しました。

#### 【調査全体概要】

現状と背景	
<p>○平成21年から「八街市小学校基礎学力調査」(教科:国語・算数 対象:1~6年生)を実施。 ○GIGAスクール構想により児童生徒に対して1人1台端末の環境が整備され、学校や家庭における文部科学省のCBTシステム(MEXCBT:メクビット)の活用が推進されている。</p>	
	
「MEXCBTを活用した地方自治体の学力調査等(文科省事業)」を活用	
調査実施日の様子	今後に向けて
 	<p>○意欲的に問題解決に取り組んでいた。 ○今後、端末を活用した学習の充実が期待できる。 ●全角・半角、大文字・小文字など、正答の類型(パターン)を定める作業に課題がある。 ●CBTのメリットを生かすよう、問題作成や出題方法などについて十分な検討が必要である。</p>
<small>八街市教育委員会への取材をもとに当センターが作成</small>	

児童がICT機器に親しみながら、主体的に学ぶ姿勢が見られるという「成果」があった一方、調査準備の難しさにかかる教員の負担があり、今後に向けた「課題」もあったようです。

しかしながら、限られた条件の中で、児童がICTを活用した調査を経験する機会を模索し、市教育委員会や学校の先生方が創意工夫して実現した本調査の取組はたいへん素晴らしいものだと考えます。

今後も、教育委員会と学校が連携しながら、よりよい形で継続していただけたらと思います。

さて、全国学力・学習状況調査の目的が「教員の授業改善」であるのに対して、市町村独自の学力調査の目的は「児童生徒一人一人の学力を評価する」ことに重点が置かれています。そのため、対象学年も複数学年になることが多く、児童生徒個人の伸びを確認することができます。

こうした観点からも、国は、全国調査と独自調査を併せて分析して、教育課程の編成に活用することを推進しています。県内すべての市町村で独自調査が実施されているわけではありませんが、実施されている市町村であれば、全国調査と併せて分析いただくよう、よろしくお祈いします。

#### 【参考】R6調査 学校質問 75(小) 79(中)

全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか

「その他・無回答」については表示していません。

